■「効果の見える治水事業」
高知県　香宗川特定構造物改築事業

高知県中央東土木事務所長　依岡（よりおか）　偉夫（ひでお）

高知県の穀倉地帯高知平野の東端に位置する香宗川は、その源を香南市香我美町別役峠（標高 292m）に発し、南流しながら５つの支流を合わせつつ、海岸線近くで砂丘に遮られるように流向を変え、同市赤岡町、吉川町に至り、鳥川と合流し土佐湾に注いでいます。

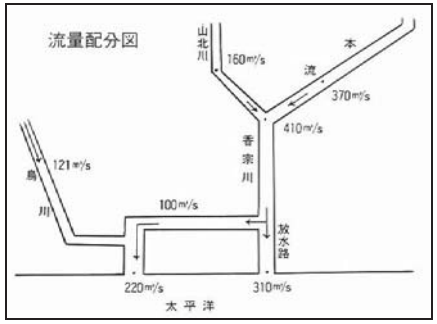
当河川は、河川延長 20.55km、流域面積 58.8km2、計画高水流量 410m3／s の二級河川です。

香宗川放水路は、市街地を流れる本川と流量を配分し香宗川治水事業の骨子として昭和 46 年度に着手し、平成２年度に完成しております。

本放水路の最も重要な役割を果たす香宗川防潮水門（昭和５０年３月完成）は、設置から約 40 年が経過した施設で、近年では老朽化による度重なる不具合に頭を悩まされていました。このため、昨年度、河川管理施設機能確保工事により開閉装置を更新いたしました。

この度の更新により、開閉機能は正常に戻りつつありますが、水門施設そのものは老朽化が進んでおり、これまでの治水に加え、南海地震・津波への備えとして、防潮水門の機能を最大限発揮できるよう、本年度は長寿命化計画を策定することとしています。

今後は、計画に基づく適切な維持管理と施設の延命化に努め、関係機関や地域住民との連携を強化しながら治水及び防災への取り組みを行っていきたいと考えています。



更新工事中の防潮水門

南海トラフの巨大地震に備えて

香南市長　清藤（きよふじ）　真司（まさし）

香南市は、高知市の東部約２０～３０㎞に位置し、東西約２０㎞、南北約１５㎞の広さを持つ面積１２６．５１㎢、人口約３万４千人のまちです。

南部地域は太平洋に面する１２㎞の沿岸部と肥沃な平野部が東西に広がり、北部地域は標高約３００～６００ｍの四国山地の一部を構成し、その山を源流とする一級河川の物部川、二級河川の香宗川、夜須川などが流れる豊かな水と緑に包まれた地域です。

本市は、これまで次期南海地震に備えた取り組みとして、自主防災組織の育成、防災学習、防災訓練などのソフト対策、避難場所でもある学校等公共施設の耐震化や津波避難階段整備などのハード対策を行ってまいりました。しかし、昨年３月１１日に発生した東日本大震災により、国や県の想定の見直しが行われ、市の防災計画も見直しが必要となりました。

海に面した本市は津波対策が必須で、付近に高台がある地域については避難道の整備を行い、高台がない地域については早急に津波避難タワーを整備する必要があります。この津波避難タワーについては、現在、住民の方を中心としたワークショップで必要箇所や規模を協議しており、協議が完了した場所から順次整備を行っていく予定です。

そして、津波被害を出さないための事前対策として「ツイン区画整理事業」と「立体換地」も計画していきたいと考えております。「ツイン区画整理事業」とは、平面的にはつながらない離れた２つの地域を一体的な地域として扱う区画整理事業のことで、具体的には、津波被害が予想される海側の地区から津波被害のない高台に換地を受け住宅移転を行うものです。高台地区では移転住宅用地のほか、地権者の住宅地、区画整理事業費を捻出する保留地、避難場所となる公共施設などを整備します。また、津波被害が予想される海側地区では、高台移転により確保できる用地を活用し、地域の活性化にも繋がる商業施設や観光施設を整備すると共に津波防潮堤などの防災施設を建設することも可能となります。そして「立体換地」とは、地区内にばらばらに立地する宅地を区画整理事業で１箇所に集約して換地することで、具体的には、集約された換地に再開発ビルを建設し、低地の住宅の代わりとして津波被害に遭わない高層階の権利を受け取り移住するものです。この２つの事業は住民の合意形成が必要なため、実施には１０年前後の期間が必要となりますが、津波対策としてぜひ実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

その他ハード対策として、河川や海岸の堤防と橋梁の耐震に向けても取り組む必要があると考えており、国土交通省や高知県の皆さんと一致団結して早期な対策の実施を行ってまいりたいと思っております。関係機関の皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

津波避難対策ワークショップ

海から見た香南市